

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4391500024
法人名	医療法人 孔和会
事業所名	グループホーム あかね苑
訪問調査日	平成 21 年 2 月 3 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 31 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 調査報告概要表

作成日 平成21年2月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4391500024		
法人名	医療法人 孔和会		
事業所名	グループホームあかね苑		
所在地 (電話番号)	天草市久玉町5716-9		(電話) 0969-73-1288
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本市水前寺6丁目41-5		
訪問調査日	平成21年2月3日		

## 【情報提供票より】(平成21年2月3日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 12 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	8

## (2)建物概要

建物形態	併設	改築
建物構造	RC造り 一部鉄骨	
	2 階建て	1 階 ~ 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 30000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(2月3日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	1 名	要介護2	1 名			
要介護3	3 名	要介護4	4 名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	83.5 歳	最低	68 歳	最高	99 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	松本内科・眼科 牛深市民病院 河浦町立病院 天草地域医療センター うしぶか皮膚科クリニック 規矩歯科 生田歯科
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体病院に併設して開設され、2年を経過したばかりの新しい施設。看護師資格を持つ職員が2名おり、病院との連携も強固で、日常の健康管理サポートや緊急時にも迅速適切な対応が可能であり、本人・家族の大きな安心となっている。母体病院にあるパワーリハビリの機器を利用し、職員指導のもとリハビリを行い、身体機能の維持に重点を置いた対応がなされている。運営推進会議には地域の多様な役職の出席を得、地域に根ざした施設運営をめざしており、委員も会議の日は早く来て入居者と交流を深めるなど、協力体制ができています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	誕生月の、個別入居者との特別な外出(外食)はまだできていないが、温泉や花見・祭りなど遠出の計画は機会をつくり、実現している。自由な食事摂取の形態も、見守りと介助でやさしい対応を心がけている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価項目は、それぞれの職員が日頃のケアを振り返り、全員で話し合い管理者が取りまとめている。外部評価は、第三者の視点で新たな気づきを得、より良いサービスに繋げることのできる機会と認識し、積極的に活用しようという姿勢が見られる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームの活動状況やアンケート調査結果・外部評価を報告し、介護事故やヒヤリハットの報告等行って、アドバイスを得ている。会議当日は早めに来られて、入居者と触れあう機会を持つ委員もおり、認知症やホームに対する理解が深まり、協力的な関係が作られている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	領収書発送時に入居者の近況を記した手紙と写真を同封したり、GH独自の新聞を発行・送付して、定期的に家族にホームの様子を知らせている。また、意見箱を設置しており、年1回アンケート調査を実施し、家族説明会で報告する等意見の把握に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常的に散歩・買い物等に出かけたり、夏場には小学生が水を飲み立ち寄りすることもある。また、地域のグランドゴルフ大会に「あかね苑杯」を出して参加、地域文化祭に手形の作品を出品する等、地域の行事には積極的に参加する他、近くの高校の運動会や文化祭を見に行ったり、保育園児が来苑しての交流等もあり、連携に向けての努力が窺える。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に作られた基本理念の1つに、「私たちは、あなたのご家族や地域の方々との結びつきを大切にしたいサービスを提供します」と謳われており、地域に根ざした施設づくりを目指した理念の内容となっている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はパンフレットに記載されており、職員のみならず施設を訪れる方々の目に留まるよう、玄関にも掲示されている。管理者と職員は、毎日の朝礼や週1回のカンファレンスの都度理念を確認・共有し、理念を念頭に置いたケアを心がけている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のグランドゴルフ大会に「あかね苑杯」を出し、職員はチームをつくっての参加、入居者は応援で地元の人たちとの交流が図られている。地域文化祭には手形の作品を出品し見学に行くなど、地域の行事に積極的に参加している。また、近くの牛深高校の運動会・文化祭に出かけたり、保育園児と一緒に七夕飾りや内輪づくりをするなどの交流が持たれている。夏場には、学校帰りの小学生が「お水飲ませて」と立ち寄ることも。その他、市主催の家族介護教室を受託し、「認知症」についての講演会を行うなど、ホームの持つ知識や技術を地域に還元する等の地域貢献も見られる。	○	今後、単独での「家族介護教室」の定期的な開催を検討中とのこと。地域の協力を得て、是非実施されるよう期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を全職員に配付し、各自で振り返った後、3日間集中して全員で話し合う場を持ち、有効な活用が行われている。外部評価は、第三者の目で新しい気づきを得て、よりよいサービスに繋げることの出来るよい機会と捉えている。前回の結果は、運営推進会議に報告し、改善点について検討を実施。また、玄関に置いて、誰でも閲覧できるようにしている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表・市包括支援センター担当者・区長・老人会長・民生委員・婦人会会長・元学校長・消防分団長等、多様な外部委員をメンバーとして、2カ月に1回開催。ホームの活動状況やアンケート調査の結果と外部評価・介護事故やヒヤリハットについての報告を行い、アドバイスを得ている。数名の委員は少し早めに来て入居者と触れあうなど、ホームの運営に協力的な関係が作られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、市包括支援センター担当者の参加を得ており、市牛深支所担当者とは、メールで情報のやりとりをするなど、連携を図っている。また、市主催の家族介護教室を受託し、認知症との上手な関わり方として、介護技術や介護者の健康作りなど、ホームの持つノウハウを地域に還元し、共に取り組む姿勢が窺える。	○	市牛深支所に、ホームのパンフレットや今回発行した新聞を持参して置いてもらったり、ホームに足を運んでもらえるよう行事の案内をする等、ホームについての理解を深め、協力してもらうための働きかけをするのも良いと思われる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	領収書発送時に、入居者の健康状態やホームでの様子等を記した手紙と写真を同封し、家族に喜ばれている。支払は基本的に持参してもらい、面会の機会を増やす工夫を行っている。また、今年に入ってGH独自の新聞(年4回発行予定)を作成し、家族や地域に配付して、ホームの様子を広く理解してもらうよう努めている。年1回、家族への説明会を開催しており、運営についてのアンケート調査結果等、きめ細かい報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族説明会の前にアンケート調査を実施したり、玄関に意見箱を置く等して意向の把握に努めているが、意見・要望等出ていない。	○	家族説明会時に家族だけで話し合う時間を設けたり、家族会の設立を働きかける等、家族の意見が出やすくする工夫を検討していくことも必要と思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年4月に実施された管理者の異動に際しては、半年間交替期間が設けられ、十分な準備がなされている。新人スタッフは母体病院で介護技術の研修後の異動となり、着任後はマンツーマンで指導を受け、1カ月間は夜勤を2人で行うなど、支障がないよう配慮している。十分な引き継ぎや研修により、異動による入居者のダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム独自の研修を、テーマをアンケートで決めて週1回実施している他、法人の研修会も2カ月に1回あり、内部研修の機会を多く持っている。外部研修は、必要なものには職員を参加させる他、情報を提供し、希望する研修に参加しやすいよう、休暇を合わせる配慮もある。また、資格試験の前にはシフトの融通を行うなど、スキルアップへの支援も行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月に1回開催される天草圏域のGH連絡協議会に参加しており、他ホームとの情報交換を行っている。協議会では、相互訪問について、希望があればいつでも可能という申し合わせができているが、まだ実現していない。なお、法人内の他グループホームへの研修が決定しており、協力的な関係づくりができている。	○	法人外のグループホームへの訪問研修の実現を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家庭や現在入所している施設等を訪問し、顔見知りになると共にホームの説明と本人の情報収集を行い、スムーズな入居に向けての支援が実施されている。在宅の場合は併設のデイサービス利用を経ての入居が多く、事前にホームの様子を見てもらったり、デイ担当者との連携を取ることで不安の払拭に努めている。入居後はできるだけ一人で孤立しないよう寄り添い、他の入居者と早く馴染めるよう、声掛け・誘導が工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の得意な方からは、一緒に準備をし、味付けや調理法等を学んでいる。また、大きめのプランターに、春菊・パセリ・ねぎ・キャベツ等の野菜を作り、土の入れ方・間引きの仕方等指示してくれる入居者もあり、共に成長を眺めて収穫を楽しみにしている。誕生会のケーキづくりをしたり、季節に応じ、よもぎ湯のよもぎを摘みに行ったり、つわ剥きをしたり、できることを一緒に行うことを大切にする生活が展開されている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族・ケアマネ・入居前施設等から、生活歴・健康状態・趣味嗜好等の基本情報をできるだけ多く収集し、センター方式のシートで記録が作成されている。入居後も、家族・知人等の面会時等に話を聞き、さらに情報を蓄積するよう心がけている。本人との会話や活動の中で新たに気づいたことなど、申し送りやカンファレンスで伝え、思いや意向など全員で共有するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議を開き、できるだけ家族にも入ってもらい、把握した情報を基に、医師やスタッフ等の意見を取り入れて計画を作成している。残存能力を活かし、自立に向けた応援という視点をもって、本人にとって何が一番幸せかを大事にし検討している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居後は担当者を決め、1か月ごとにオリジナルの「モニタリング・評価・記録表」で評価を行い、3か月ごとに計画の見直しを行っている。急な状況の変化があった時は、カンファレンスを開いてプランの変更を行い、常に現状に即した対応が出来るよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別の要望に応じ、買い物・散歩・墓参り・出身地の老人会会合や理美容院等への外出支援を行っている。また、母体病院にパワーリハビリの機器があり、週2回、職員が声を掛けながら行い、身体機能の維持・向上に役立っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員が隣接の母体病院をかかりつけ医としており、通院は職員が同行し、ホームでの様子を伝え、また診察結果を聞いてケアの参考にするとともに、家族に伝え、情報の共有が行われている。母体病院が隣接しているので、緊急時にも迅速な対応ができ、本人・家族の安心を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	年1回の家族への説明会で、看取りについてホームでできること・できないこと等説明し、意向を調査・把握している。病状の見極めがついた段階で、話し合いを重ね、本人・家族の意思確認・医師の説明・スタッフの方針共有等行うようになっている。昨年、訪問看護を使いながら看取りを経験し、ホールが見えるように、みんなの声が聞こえるように、できるだけ家にいるような状態を心がける対応を行い、職員の自信にもつながっていることが窺える。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いに注意を払っており、親しみを込めながらも牛深弁での敬語を使い、入居者の尊厳に配慮した対応が見られた。個人情報、ホームを一步出たら話さない、個人情報を含む記録は施錠管理、また、外部からの施設見学者等からも個人情報を守る旨の同意書を書いてもらうなど、情報の取り扱いに留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ個別の希望に沿い、「ちょっと待ってください」をタブーとした対応が行われている。一人ひとりのペースを大事に、行事参加等は自由意思に任せ、見守り重視の支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり、味付け等の準備、台拭き・茶碗洗い・茶碗ふきの後かたづけ等、出来る人に気持ちよくやってもらえるよう声掛けし、一緒に行っている。献立は、病院の管理栄養士が作成した物を基本としているが、いただきものがあったり、入居者の食べたい希望に沿って変更したメニューを作るなど、食事が楽しくなる工夫が見られた。	○	職員の休憩時間を確保し、リフレッシュして良いケアに繋げるとの観点から検討を重ねた結果、昼食時はその日の担当職員が食事介助と見守りを行っており、交替で別室で持参した弁当を食べる体制となっているが、同じものを一緒に食べることで得られる気づきや喜びがあると思われる。交替でも、一緒に同じものを食することの検討が望まれる。また、すくい易い食器の工夫も必要かと思われた。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴は午後行っているが、希望により午前中や毎日の入浴にも対応している。浴室暖房も必要に応じて活用し、快適な入浴となっている。よもぎ湯やゆず湯、入浴剤等で、入浴が楽しくなるような工夫も見られた。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日めくり暦の対応や新聞取り・花の水掛け・食事の挨拶・食事の準備と後片づけ等、得意なこと・好きなことを、自分の役割としてやってもらえるよう「あ～助かった」「ありがとうございます」等、張り合いとなる声かけや誘導での支援がなされている。当日、評価員にお茶の接待をしてくれた入居者もおられ、自然に役割を持って生活する様子が窺えた。また、新聞紙でちり箱をつくったり、ちぎり絵をしたり、楽しみごとの創出に工夫が見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩・買い物その他、暖かい天気の良い日には、玄関横のベンチでティータイムを楽しんだり、戸外で気持ちよく生活できるよう支援している。季節に応じ、花見や地域の祭りに出かけたり、コンサートや足湯の温泉への外出の他、天草場所の相撲観戦・力士との写真撮影など、外出の機会が多く作られている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関への施錠は21時までせず、「いらっしやいませ」の声のセンサーを設置しており、出入りを確認し、安全面の配慮を行っている。玄関を入るとすぐリビングで、居室はリビングを取り囲むように配置され、見通しの良い造りが工夫され、その日のリーダーが主となって、ホール・居室の安全確認、注意深く見守りを行い、安全に留意している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、併設の母体病院と認知症デイサービスとの合同で、消防署の協力を得、入居者も参加して避難訓練を実施すると共に、年1回通報訓練を実施している。緊急時は病院との協力体制が整備されている。	○	消防分団長が運営推進会議の委員でもあり、消防団の協力を得ての避難訓練や、認知症について理解してもらう場を設けるのも良いと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、病院の管理栄養士が作成したものを参考にしており、栄養バランスを取りつつ、摂取量が少ない入居者には、医師と相談のうえ、栄養のある物や本人が希望する物を工夫し提供する努力が見られる。水分量は1,000～1,500ccをめやすに、摂取量を把握しており、不足する人にはゼリーなどで補っている。また、口腔ケアについても言語聴覚士の指導を受けるなど、一人ひとりの状態に合わせた対応が見られた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの一角はこ上がりの畳の間となっており、休んだりテレビを見たりとくつろげる場所となっている。リビングは季節に応じた飾り付けや、壁には行事を楽しむ思い出写真などを貼ったり、唱歌を流すなど、居心地良く過ごせる工夫がなされている。玄関横の苑庭にはテーブルとベンチが置かれ、天気の良い日は、日光浴やおしゃべりをしたり、お茶を飲んだり、楽しい空間作りに配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の入り口には、名札代わりに一つひとつ違う手作りの飾りが下げられ、自分の部屋がわかりやすいように工夫されている。床はフローリングで一部畳を敷いてあり、生活様式にあわせ、ベッドでも布団でも利用しやすく工夫されている。椅子やちゃぶ台を置いてあったり、ぬいぐるみ・保育園児からの手紙を飾ってある部屋など見られた。	○	全体的にシンプルな部屋が多く見られたが、居室は居心地の良い暖かい雰囲気が必要と思われる。本人や家族と相談して、馴染みの家具や思い出の品を持ち込む事を継続して働きかけ、共に飾り付けをするなど、住まいとしての居室づくりを工夫されることに期待する。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームあかね苑
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県天草市久玉町 5716-9
記入者名 (管理者)	口脇 五十鈴
記入日	平成 20年 12月 9日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	ご家族の側や、地域の中で生活しているという思いの継続の為に、地域行事に出かけたり、迎え入れたりしている。また、「あなた自身の物語を尊重したお手伝いをします」と掲げている様に、その方の歴史を十分にアセスメントし、関わりの中に生かせる取り組みを実施している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	理念をいつも念頭に置き、日々入居者様へ対する思いを忘れない為に、朝礼時呼称するようにしている。また、カンファレンスや朝礼時、情報を共有し実践につなげている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	理念を施設の入り口の見える場所へ掲示している。ご家族には面会時や電話で状態報告を行いながら、理念に基づいたサービスを行っている事を説明する。また、運営推進会議の中で地域の代表者には説明し伝えている。また、地域の民生委員さん達の視察研修の受け入れ時などにも説明をしている。		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	苑庭のお知らせコーナーには、時折地域の方や通学中の子供さん達が、足を止め行事確認をされたり、声かけあつたりのオープンスペースを設けている。天気の良い日の苑庭でのお茶時間には、地域の方の声かけや、ご家族の参加がある。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	地域文化祭やどんと焼き等への参加はもちろん、地域のグラウンドゴルフ大会に「あかね苑杯」を作って頂き参加する等、地域の中の事業所として皆さんに支えて頂いている。逆に、自分達にできる事として、地域公民館で「認知症」についての講演会などで地域交流を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	支える地域体制を作ることを目的に、認知症についての理解やその介護等についての説明や、介護者向けの腰痛体操・口腔ケアの大切さを盛りこんだ、家族介護教室を開催した。	○	参加者の方達より、今後も開催して欲しいとの希望もあり、色々な役立つ内容を入れこみ、定期的実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価資料を基に現段階での評価を知り、改善点など全員で話し合い改善へと繋げている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苑での取り組み状況等について報告し、委員の方から貴重なご意見をいただき、サービスの向上に活かしている。また、ご家族を対象としたアンケート調査結果や、外部評価に至るまで、全部を報告し話し合いの場からのアドバイス等、サービスの向上に役立っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	家族介護教室やイベント時は市の担当者への案内を行い、外部評価者として意見を頂き、サービスの向上に役立っている。また、メールでの最新情報のやり取りを実施している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地元で行われる講演会、勉強会へは参加し理解を深めるようにしている。	○	県の権利擁護推進員研修修了者の孔和会看護師長の勉強会を計画している。(介護事業研修)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	TV、新聞等で取り上げられている事件を話題としたり、虐待防止マニュアル等で勉強し意識付けしている。	○	今年度認知症実践者研修終了者3名による院内研修会を計画している。(孔和会勉強会)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書と重要事項の説明を行い、質問にも苑の対応等十分納得して頂いたうえで契約している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し記載して頂ける様にしている。意見、不満、苦情に関し、直ちにカンファを開き、検討し、新たな対応を行っている。施設長への報告も直ぐに行うようにしている。また、家族会前にアンケート調査も実施し、家族会時に説明・報告できる様にしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に近況報告を行うのは当然で、遠方へのご家族へは領収書発送時に写真やメッセージを添えて報告をしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのご意見は素直に受け止め、カンファを開き検討し、新たな対応をし、ご家族へ結果報告はもちろん運営推進会議への報告を行っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の中で発生する意見等出しやすい雰囲気づくりと、その意見に対し改善すべき所は直ぐにでも改善している。また、個別の目標面接の機会を利用し、職員の意見や提案を聴き、サービスに反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常に状況に応じての対応ができるような態勢はとれている。また、職員も協力する事を惜しまず居てくれている。帰宅願望等で不穏が見られたりする時は、スタッフと共に自宅への外出や、ドライブ等を計画するなど、勤務調整に努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者が居るうちに事前に交替期間を設けている。新人スタッフも病棟で介護技術の指導を受けてから移動している。また、入居者の方達も身体的にレベル低下がある為、看護師を増員し安心して暮らしていただけるようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎週水曜日に研修会(勉強会)を開催している。また、法人内外の研修に関しては、職員通用口への掲示や朝礼での呼びかけ等で、それぞれが研修内容を検討し、参加できる体制がとれている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の訪問もあり情報交換を行っている。また、グループホーム連絡協議会への参加等で、ネットワーク作りやお互いのサービス向上に役立っている。	○ 来年2月からはグループホーム桜ん里への研修事業も計画している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	数ヶ月に1回の食事会を開いたり、休憩時間を使っての気分転換が出来るよう苑から外出したり、他部署(スタッフ)と交流したりする時間も確保している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個別面談を実施し、個々の目標を支援出来る態勢をつくっている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問することで、ご本人または、本人の代弁者である家族の方から情報をいただき、ご本人の歴史を把握し、よい人間関係が築ける様にしている。また、他サービス利用時から交流を図り把握に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問によりご家族の一番の悩み・望みなど聞く機会を作り、苑での生活を話したり、見学をすすめていたりして、安心してご家族を入居させる為の信頼関係をつくっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	じっくり話しを聞き、冷静に今何が必要かを見極め、他の居宅サービスの紹介や手配のお手伝いをしている。手に余る問題に関しては、孔和会に相談し適切な支援が図れるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	隣接している認知症デイサービスの利用など提案し、馴染みの関係作りに努め、徐々に慣れて頂く方法をとっている。また、入居前には必ずスタッフが自宅又は病院等に出向き、ご利用者様との面会を重ねている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔からの習慣や知識、残存機能を十分に生かしてもらえるよう準備したり、職員への学びの場として色々な場面で関係を維持している。料理が得意な方は、料理をしながらスタッフへコツを教えて下さったり、植木の手入れの手ほどきを受けたりしている。教える表情は活き活きされ、それを見るスタッフも楽しみに感じている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	必要であれば、ご家族と連絡を取り外出、外泊の機会をつくって頂ける様な働きかけや支援を行い、ご家族と共にご本人を支えて行ける関係作りを実施している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生会やイベント事にはご家族へ参加を呼び掛け、参加できない場合はメッセージ等で気持ちを伝えていただき、よい関係が築いていける様努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	老人会や地区の行事へ参加をし、関係を保つようにしている。美容院や自宅近所へのドライブなど昔からの繋がりを大切にすることが、ご本人のメンタルケア認知症悪化予防と考えながら関わっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人が孤立しないよう職員が間に入り、話題の提供やレクリエーションの参加等への呼び掛けをしている。トラブルになりそうな時も早目にキャッチし、何気なく回避できる様な関わりに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された後もご家族・本人との交流は続いており、情報交換を行ないながら、出来る限り今までの関係が、続けられる様に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス等で話し合い、把握に努めている。また、困難な場合は相手の立場になって考えたり、今の気持ちも大切にして本人の意向に添えるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ケアマネ、入居前に利用していたデイサービスからの情報は勿論、親戚・友人等の面会があった時は、新しい情報が入る場合がある。担当を中心とし、ご家族、本人へ対しての情報収集に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職歴や生き立ち、ご家族、ご本人、入居前に利用していたデイサービスの話しを参考にしながら把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成した時点で担当者会議を開き、ご家族への説明と共に、スタッフやかかりつけ医師の意見を聞きながら、本人にとって何が一番幸せかをあらゆる方向から検証し作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	一ヶ月毎の評価を行い、本人・家族の要望や変化に応じて期限にとらわれずに、介護計画の変更、作成を行っている。また、急な状況の変化がみられた時は、ケアカンファを開き、本人又はご家族の了解のもとに、ケアプランの変更と具体策の実施を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	独自のオリジナル用紙を用いて入居者の様子、気づきを書き込み変化がわかるようにしている。それを基に計画作成に役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームのみの視点ではなく、孔和会が持っているあらゆるサービスの機能を最大限発揮すると共に、他事業所との関係を保つことによってより良い支援に繋げている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	保育園児・小学生との交流や中学・高校の文化祭招待、ボランティアの方々の踊りなど見たり、また、通所施設の音楽療法に参加したりして、楽しい時間を共に過ごせる様努力している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問看護の利用等、他サービス事業者と話し合いながら、家族も巻き込みその時必要なサービスの提供をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	長期債務の支払いの催促の電話がかかって来た事に対し、実の姉に後見人制度の説明をし、弁護士に連絡を取るなどの措置をして完結に結びつけた。 勉強会への参加、そして運営推進会議への出席によりご意見や、その時々々の指導を仰ぎ協働している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の希望、ご家族のご意見を聞き了解を得たうえで、スタッフ同伴の受診へと繋げている。また、受診時に生活状況等の情報提供を行い、結果は面会時や電話・FAX等で家族へ伝えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳をもった牛深弁での敬語で言葉かけ、物事の説明には特に注意を払い行っている。また、記録等の個人情報については施錠管理を行っており、孔和会内の個人情報保護法の話し合いや、秘密保持の徹底を職員が図れるよう努めている。外部からの施設見学者には、同意書を頂いている。	○ 学会発表や広報紙に写真などを使用する場合は、必ず口頭で同意をもらっているが、今後は同意書を頂くようにしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その日のおやつや飲み物の選択、入浴の時間・入浴剤使用など、スタッフの誘導ではなく本人の希望を聞きながら、心地よい生活が送れるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで行って頂き、苑での行事なども強制はせず、見守りを重視した支援を行っている。何か頼まれた場合は「ちょっと待ってください」の返事は慎み必ず立ち止まり、その人の今の想いや言葉を大切に、牛深弁での敬語で接している。	
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族へ以前の生活スタイルや本人の好みを聞き出し、より元気な頃の装いが継続できるような取り組みをしている。新しい家族からの情報は、スタッフ同士で共有しながら、その方らしさのイメージを共有し、理容・美容に関しては馴染みの店に通ってもらっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の特技や残存能力を生かして、スタッフと共同して行っているが強制しないよう注意している。	○ 誕生日には、その人の好物や食べたい物を聞いてお出ししたり、外食をしたりと、希望をとり行っていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好は本人や家族からサービス利用時に情報収集し、その日の飲み物は固定した物をお出しせず、その日の気分や好みの飲み物・おやつを提供している。飲酒や喫煙者は現在のところ無し。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツは使用しないで、排尿・排便パターンを調べて声かけを行い、トイレへ誘導している。しかし、中には排泄の失敗による、精神的ダメージを受けられる方もあり、失敗を避けるために夜間のみ使用する方もある。また、ターミナルの方に使用した。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご希望や体の汚染時以外の午前中の中の入浴は避け、出来るだけその日の気分・ご希望で入浴して頂き強制はしない様になっている。また、よもぎや柚、入浴剤を使用し、入浴の楽しみを工夫している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の睡眠の妨げにならない様気を配りながら、本人の好まれる場所で、自由に居室やホール(ソファ)・畳の上で休んで頂いている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日めくり暦や新聞取り、花の水かけ、食事のあいさつ、後片付けや茶碗拭き、得意な寿し作りや煮物を教えてもらったりと、この様な自分の役割と思い実施されていることを誘導しながら、役に立っていると張り合いになる様に支援。また、忘れられたりした場合は、スタッフや他入居者の手助けなどで、継続できる働きかけを行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望がある時は一緒に行き、自分で商品を決め支払いまでして頂く様に促している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体力・身体的機能低下や気分転換を考え、本人へ希望を確認して、買い物や苑外散歩・ベンチでのティータイムを行っている。また、隣にあるパワーリハビリも利用している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節感を味わっていただくために、その時々場所へ外出している。昨年为天草場所では、相撲の観戦や力士と写真を撮ったりと大変喜ばれた。また、地域の祭りやコンサート、足湯の温泉などに出かけたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればスタッフが取り次ぎのお手伝いをして、お話は自由にしていただいている。	○	年賀状や絵はがきで連絡が出来る様に、お手伝いして行きたいと思っている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問された時は笑顔で対応し、お茶は必ずお出しする様になっている。また、ご家族によりその時々で、居室で過ごして頂いたり、ホールで過ごして頂いたりして、お話が伝わらない場合は中に入り代弁したり、誘導たりしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	孔和会で行っている、介護事業研修会に参加したり、マニュアルに添って対応している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	トイレ、玄関、窓以外鍵は無く、自由に出入りできるようにしている。玄関には出入りがわかる様に、「いらっしやいませ」のセンサーを設置しており、防犯の意味で21時に施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	その日のリーダーが主となってホール、居室内での安全を確認すると共に外出者の見守りを行っている。また、毎朝バイタルチェック等の観察を行いながら、その日の服装を記録し離苑時に備えている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミ、T字カミソリなど、危険な人を除き個人の手持ちとしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者に関してカンファを開き、事前に情報を共有化し、事故防止に努めている。また、スタッフ間の声かけと自分の目で確認するよう指導している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時に備え、勉強会と実施訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署員立ち会いでの避難訓練や地元消防分団長とのコンタクトをとって直ぐに対応していただけるようにしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時の説明の中に、リスクについても説明を行い、理解をいただいている。リスクが考えられる時には、その都度ご家族と連絡を取り相談し、改善している。特に転倒による骨折は、可能性としては大であるがリスクはきちんと説明し、行動パターン等の観察でリスク回避の予防策をとり、抑圧感を抱かれないよう工夫を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	通常と違った行動や異変に気付いた場合すぐ看護師に相談し、スタッフ間での申し送りでも共有化している。また、その後の対応も早めに行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用に関しては、薬局からの説明書を直ぐ見れる場所に置き、用法・用量を確認し、服薬支援を行っているが、詳しい事が必要な場合にはドクター、薬局へ問い合わせを行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維を意識した食事内容と、管理栄養士の立てた献立を中心に提供したり、水分量も注意している。また、運動面でも体操や散歩により予防している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きを促したり、入れ歯の清潔保持に努め、言語聴覚士による指導もうけている。また、言語聴覚士に相談したり指導をうけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特に水分摂取について確保できているかをチェックし、補給できるよう内容に変化をもたせる工夫をしている。栄養バランスは管理栄養士の献立中心に支援しているが、うまく食事が摂れない方には、医師と相談し、栄養食品や嗜好を取り入れ、食事形態の工夫をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルやその時々々の流行に合わせて勉強会を行い、予防に対する認識の共有化を図っている。また、法定会議に参加したり、テレビや新聞等での情報の共有化を図り、お茶うがいや手洗いの励行をし予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	こまめな買い物と、台所の衛生管理、賞味期限の確認など確実に行うよう努めている。また、スタッフのうがいや手洗いの励行にも努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場や施設の出入り口はオープンにし、出入りは自由としている。また、玄関周りは整理整頓に心がけ、入り口までの坂に手すりを作成している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「暖かで心地よい空間を提供します」と理念に掲げている様に、季節をわかって頂くためにホールの飾り付け等も変化していくよう努めている。また、TV、CDの音量にも不快とまらない様に注意している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	昼の間でテレビを見たり、ソファーに座り会話されたり、また手作業などテーブルで行える様にしている。座る場所は定着しており、いつも隣に居る方がいないと心配される場面もある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からの持ち込み家具等をできるだけお願いし、新しい物ではなく、使い慣れたものを置くようお願いしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気等は特に努めて行き、エアコンの温度管理は冬は25～26℃、夏は26℃にスタッフで調節・管理している。冬場のエアコン使用時は、濡れタオルや水を溜めて空気の乾燥に対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の今までの生活スタイル、例えば布団を使用し上げ下ろしを自分で行っている人や腰痛等があり立ち上がりが困難でベッドを使っている人など、その人の身体機能を考えて、自立に向けた工夫を行っている。	○	一人一人にあった手すり等の設置を検討している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室には氏名札は無く、違う飾りつけで対応している。トイレ等に関しては案内用紙を貼り対応している。たとえ失敗しても、さりげなく声かけを行う配慮をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	苑庭にベンチを置いて日光浴や皆で話したり、唄ったり、お茶を飲んだりしている。また、草花や野菜作りを楽しんで頂くようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症介護について職員のレベルアップの研修・勉強会を行っている。看護師を配置している為緊急時の対応や健康管理のサポートを行い安心して生活して頂き、また今回看取り介護を行い、今後ご希望があれば最善を尽くし取り組んで行きたい。